

～ 「新たな飛躍」 予算 ～

我が国経済は、世界景気の減速等を背景として、引き続き弱い動きとなっており、先行きについても、海外経済の依然として高い不確実性を背景に、景気の下振れが懸念されるとともに、雇用情勢やデフレの影響等にも注意が必要な状況にあります。また、今般の国の経済対策に期待する一方、新たな政権による今後の政策や制度変更等が、本市財政にどのような影響を及ぼすのか注視する必要があります。

このように、経済状況が依然として厳しく、環境が大きくかつ急速に変化している中であっても、本市においては、市民生活の安全安心をしっかりと確保するという、地方自治体の責務を果たすとともに、少子高齢化の一層の進展やエネルギー構造の転換などがもたらす新たな課題についても、着実に対応していくことが重要であります。

平成25年度予算は、「川崎再生フロンティアプラン」第3期実行計画と「第4次改革プラン」の最終年次の予算として、都市経営の視点に立ったうえで、環境の変化に的確かつ機動的に対応しながら、計画事業を着実に推進するとともに、行財政改革の徹底により持続可能な財政構造を構築することで、144万市民がいきいきと心豊かに暮らせる「元気都市かわさき」が続いていくよう、次の点を基本に編成を行いました。

「川崎の新たな飛躍」に向けた取組を全力で推進します。

災害に強いまちづくりの推進、子育て環境や高齢者の多様な居住環境の整備など、市民が安心して日常生活を送るために必要な施策を着実に実施してまいります。

また、ナノ・マイクロ、ライフサイエンス・環境分野などの研究施設を拠点とし、本市の持つ特徴や強みを活かして、「ライフイノベーション」、「グリーンイノベーション」、「ウェルフェアイノベーション」において世界をリードするまちづくりを推進するなど、「川崎の新たな飛躍」に向け全力で取り組んでまいります。

自治基本条例に基づく市民本位のまちづくりに向けた取組を一層推進します。

市民が市政に主体的にかかわるしくみとして、パブリックコメント手続制度等の適切な運用に取り組み、地域課題を市民自らが発見し解決する市民協働拠点として、区役所機能の一層の強化とともに、局・区間の連携強化を図り、身近な地域の課題解決に向けて取り組んでまいります。

行財政改革の取組を確実に反映させました。

依然として厳しい財政環境の中、「効率的・効果的な行政体制の整備」や「市民サービスの再構築」など改革の取組を進め、その成果を確実に反映させました。引き続き、「第4次改革プラン」における財政的な目標である「平成26年度の収支均衡」を達成するよう、しっかりと行財政改革に取り組んでまいります。

また、「改革効果の市民サービスへの還元」については、これまでの取組に加え、新たに「川崎認定保育園保護者負担の軽減」を実施するとともに、「中部小児急病センター」を開設してまいります。

平成25年度予算は、「川崎再生」から「新たな飛躍」に向けて着実に進んできた歩みを今後とも緩めることなく、さらなる努力を重ねながら、本市の持続的な発展のための取組を進めていく予算であるという意味を込めて、「新たな飛躍」予算」としました。